



はじめに

長かった夏休みを終え、長期留学生たちが帰ってきました。二学期の始まりです。

今年の夏は例年にも増して暑さが際立った印象でした。数値の上でも、平均気温は過去最高、群馬県では日本観測史上最高となる 41.8℃を記録しました。日本の夏はこの先どうなるのかと心配になってしまふほど、気候変動や地球温暖化が身近に迫っていることを感じた 2025 年の夏となりました。

そんな猛暑のニュースが飛び交う中でしたが、三瓶こたま学園では今年も夏休みに元気な子どもたちの声が響きました。声の主は、短期留学に参加した子どもたちです。11泊12日の長期コースは21名、4泊5日の自然体験コースは26名、合わせて47名がこの三瓶の地を訪れ、自然体験を行いました。幸い三瓶は標高や自然環境のおかげもあり、都市部のような暑さに見舞われることは少ない中、今年も計画していた全ての日程を無事終えることができました。それでも年々迫りくる暑さ。安全に活動するために、水分補給や塩分補給をはじめとした熱中症対策は今や必須事項です。この先も夏の自然の中でこのような活動を変わず続けられることを願ってやみません。

9月も下旬に差し掛かり、やっと涼しい日が増えてきました。長期留学生達は先日ソロキャンプを終え、これから稲刈りや脱穀と秋らしい活動へと向かっていきます。そしてその先には11月の収穫祭が待っています。今年も素敵な収穫祭を迎えられるよう、準備の日々を過ごしています。

大田市山村留学センター
指導員 浅平 泰地

活動カレンダー

8月29日(金) 帰園	15日(月・祝) センター入り
30日(土) 畑 大國晴雄氏講演会	より作り ならだて
31日(日) 上立石納涼会	畑作業
9月6日(土)～7日(日) ソロキャンプ	個人活動
8日(月) 農家入り	個人活動
	24日(水) 農家入り

大國晴雄氏講演会

8/30(土)

晴れ

長い夏休みが終わりセンターに戻ってきて最初の活動は、まちセン主催の講演会でした。この北三瓶地区出身の元・大田市教育長の大國晴雄さんが、世界遺産にも登録されている石見銀山についてお話してくださいました。石見銀山遺跡を世界遺産に登録するために尽力された大國さんだからこそ聞けるお話がたくさんあり、大変勉強になりました。



上立石納涼会

8/31(日)

晴れ

この日は、センターが属する上立石自治会の納涼会でした。学園生は毎年とても楽しみにしているイベントで、今年もBBQやかき氷、ビンゴ大会にスイカ割りと、イベントが盛りだくさんでした。上立石自治会の行事は今年度2回目ですが、学園生も地域の一員にまぜてもらいしっかり懇親を深めました。準備から片付けまでお手伝いもよくできました。その後は、学園生だけで水風船合戦をしましたが、最後の夏休みを楽しく過ごせました。



ソロキャンプ

9/6(土)~7(日)

晴れ

少し天気が心配されましたがとってもいいお天気になったこの日、ソロキャンプを行いました。これまで何度かキャンプをしてきましたが、今回はこれまでの集大成でもあるソロキャンプです。1人で山の中に入り、1日目の昼食、夕食、2日目の朝食の3食を自分で作って食べ24時間1人で山の中で過ごす体験です。山の中には一人ひとり行くので、誰がどこにいるのかもわかりません。本当に一人での挑戦です。事前にミーティングを行い、子ども達も1週間前から準備に取り掛かりました。テントにするのか、ブルーシートのみで過ごすのか考えたり、薪を集めたり、ワクワクとドキドキ、楽しみと不安。それぞれが色んな思いを抱えながら当日を迎えました。いよいよ自分で必要な道具や食材などそれぞれで準備し出発です。コンパクトにまとめている子もいれば、両手いっぱい抱え、「持てない」と嘆く子も。しかし、全ての必要な荷物は自分で運ばなければならず、さらに1回キャンプ地へ入ると戻ることはできません。それぞれの荷物を抱えてキャンプ地へ入りました。キャンプ地へ着くと、各々活動開始です。3食作って食べた子もいれば、2食でマッチがなくなった子、マッチなしで挑戦した子、色々あったと思います。24時間、大自然の中で一人、各々何を感じたでしょうか。翌日、センターに戻ってきた学園生は、お互いの顔を見ると、「どうだった？ご飯作れた？」「怖くなかった？」と堰を切るように喋りだしました。その後は片づけをして振り返りをしました。不安な子も多いソロキャンプでしたが、各々にみなやり遂げました。



より作り なだら立て 9/15（月・祝） 晴れ



稲刈りの前の週に、より作りとなだら立てをしました。“より”とは稲刈りの時に刈った稲を束ねる藁なわの言いいます。なだらとは、刈った稲をかけて干すものを言います。どちらも稲刈りの為の準備です。まず午前中により作りをしました。よりは去年の稲藁を使い作ります。数本手に取り穂の先の方を縛っていきます。継続生は昨年やっているの、手慣れた様子で始まりましたが、新入園生は縛り方が難しく初めは苦労しました。しかし、次第にコツを掴むとすいすい出来るようになって、最後の方は黙々と取り組んでいました。小4は70本、小5は80本、小6&中1は100本、中2&指導員は120本という目標本数が決められ、最初は驚いていた子ども達でしたが、皆、学校から帰ってきて宿題が終わった後や、休日の空いている時間などを使って全員達成していました。中には楽しくなって目標本数をはるかに超える子もいました。



午後はなだら立てです。上立石地区の黒谷さんに教えて頂きながら作りました。重い木の棒や長い竹を運んだり、それらを紐で結んだりして組み立てていく作業でしたが、みんなで協力して声を掛け合いながら出来ました。



収穫祭準備始まりました

2学期に入り、いよいよ収穫祭の準備が始まりました。係決めをして準備を始めたり、全体発表では何をするのか考えたりします。休日は自分のやりたいこと、ここでしかできないことをとことん追求する個人体験に各々取り組んでいます。学校では運動会、文化祭と忙しい2学期ですが、自分たちの成長を発表出来る大きなイベントになるので、それに向かってみんなで一つになって取り組んでいきたいと思います。



畑の様子

長い夏休みが終わり帰ってきた学園生を待っていたのは、草だらけの畑でした。帰ってきてまずみんなで草取りと収穫をしました。今年は、例年になく暑い年だったため、草の成長も早く実よりも草の方が主張激しい畑ですが、そんな中、ミニトマトやピーマン、ナスなどがたくさん採れました。

9月20日（土）の午前中には、ジャガイモが植えてあったところに畝を立てて、秋野菜の大根とカブの種まきをしました。もう畝立ても慣れたものかと思いましたが、意外に苦戦しながらやっていました。撒き終わった後には、夏野菜の片付けをしたり、My畑の草取りをしたりしました。

今年はなかなか暑さが収まらないせいか、まだまだナスやピーマン、ズッキーニが元気に実をつけています。これからサツマイモやヤーコン、秋野菜の大根なども大きくなると思うので収穫が楽しみです。



＼不思議がいっぱい／

9月に入りました。9月といえばわたしは底引き網漁解禁、秋ナス、稲刈りと台風を連想しますが皆さんはどうでしょう。国内では壊滅的な豪雨や竜巻が局所的に発生しています。目から入る情報は記憶に大きく残りやすいと感じていて、瞬間風速の強さで目の前に車が飛んできたり、集中豪雨で排水が追いつかず地下駐車場が冠水するといった映像記憶は、経験したことのない刺激を得たためなのかそう簡単に忘れることがないように思います。その点、誰もが今年は梅雨があったっけとか、夏は昨年以上に暑かったなあとの思い出はあるはずですが、暑い暑いと言っていた暑さがどの程度だったのか、去年とはどう違う暑さだったのかを他人に理解してもらうのは意外と難しいように思います。

それでも、五感がお互いがお互いを補完して用を得ることは意外と多いのかも知れません。

去年と今年の夏の暑さでわたしが感じた例を紹介します。ひとつ目は松枯れです。米作りをしていたので春先の荒起こし頃から稲刈りが終わる頃までの期間はどこにいても無意識に田んぼへ目がいきます。ところが、去年の田植えが終わり早苗の緑がそよぐ頃、田んぼの先の山肌に茶色の点がちらほら見えはじめました。そうこうしているうちに、濃い黄色、薄い茶色の点が増え始め比例して茶色の点も増え始めていることに気がつきました。松枯れです。いま、センターは雑木林で囲われていますが10年くらい前までは樹齢50年くらいのアカマツで囲まれていてキャンプや山遊びにうってつけの森でした。そのアカマツがマツクイムシ（正確には線虫）にやられたため、増殖拡大を防ぐため健全なものを含めすべての木を伐採しました。何か同じようなことが今起きているような胸騒ぎをしています。県立自然館サヒメルの植物の学芸員さんに尋ねてみると、おとしからの高温少雨によって木の体力が落ちていることが松枯れを誘因する線虫にとっては良い環境となって活動が活性化しているのではとのことで良く理解できます。ところが、例年だと9月の彼岸頃に咲きみだれるヒガンバナは、去年は9月下旬頃に芽を出し始めました。秋分の日（9月23日）にヒガンバナが咲いていないことは初めてだったので「とても暑い夏と少雨のため開花遅れた？」と手帳に書いていましたが、今年は去年以上の少雨猛暑だったのに例年のように咲き始めています。この違いは何なのか不思議です。

不思議ついでの話題をもうひとつ。「冷夏（れいか）があったことを知っていますか？」という新聞記事がありドキッとしました。50歳くらい以上の方にしかわからないかもしれません。わたしは思い出しましたが、昭和の終わり頃の1985年に長雨が続きナダラ掛けした稲の穂から芽が出て出荷できなかった年があったことを鮮明に覚えているからです。その頃、夏は夏らしくあって欲しいと多くの人が思っていたはずで、よもや40年先には暑すぎる夏が来るとは思ってもみなかったはずです。

新しい演目に取り組み中
～太鼓クラブより～



「くにびき通信」2025年度 第5号



大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy



大田市山村留学センターバックナンバー
公式ホームページ

〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694

TEL: 0854-86-0700 FAX: 0854-86-0701 Email: o-sanryu@city.oda.lg.jp